

| | | | |
|---------------|-------------------|------|----|
| 裾野麗峰山の会・山行報告書 | | 文・写真 | GT |
| 山行番 | NO. 1848 | | |
| 日時 | 2019/12/28~29 | | |
| 山域 | 中ア・空木岳(2864m) | | |
| 参加者 | GT(72歳10ヶ月)、KH=2名 | | |

1日目 12月28日(土) 快晴

長泉5:30-甲府-駒ヶ根IC-林道終点発9:22-池山避難小屋(泊) 12:44

標高差 林道終点約1020m~池山避難小屋約1750m=約730m

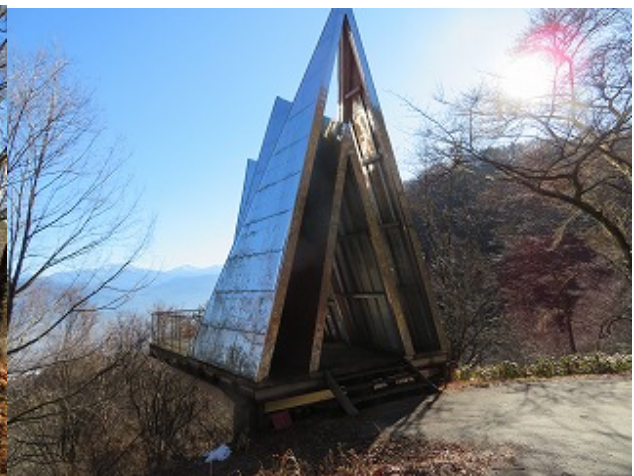
1969年から続いている、恒例の年末山行。今回は何処にするか??ギリギリまで決まらなかった。仙丈ヶ岳・甲斐駒は、すでに何回も上り、新鮮味がなかった。出来れば新しい山・上っていない山が良かった。しかし、冬は営業小屋が少なく、営業小屋利用の場合は、山域は限られる。ただ、避難小屋利用なら丹沢主脈縦走などバリエーションは広がる。

HPの山域別登山を眺めたら、冬の中央アルプスは圧倒的に少なかった。もっと上られても良さそうだ。中央アルプスは標高差が案外大きく入山が厳しい。ロープウェイはあるが、それは絶対使いたくない。

最終的に冬未踏の空木岳に決まった。池山避難小屋利用だが、アプローチは少ないので使える。



林道終点



展望台



生涯年末の山一覧表

| | |
|----------------|---|
| 1969/12/30~1/5 | 甲斐駒・摩利支天中央壁、水晶沢・仙丈ヶ岳 人生初冬山で岩壁も。この年全国で大量遭難。 |
| 1970/12/28~1/5 | 阿弥陀岳・北西稜フランケ、横岳大同心・雲稜ルート . . . 北西稜は初登攀・ |
| 1970/12/30~1/2 | 仙丈ヶ岳 単独で登頂。 |
| 1971/12/30~1/2 | 北岳・池山尾根 |
| 1972/12/30~1/2 | 北岳・池山尾根 |
| 1973/12/29~1/5 | 2名。赤石まで往復。畑薙から林道歩き1日。 |
| 1974/12/28~3/1 | 茶臼岳～聖岳 2名。 |
| 1975/12/28~1/1 | 仙丈ヶ岳～塩見岳 2名。三峰岳上りはザイル使用で厳しい。三伏でM 労山に会った。 |
| 1976/12/29~1/2 | 弘法小屋尾根～農鳥岳～間ノ岳～北岳 5名。厳しい尾根。厳しい山だった。 |
| 1977/12/30~1/2 | 鋸岳～甲斐駒～黒戸尾根 釜無川源流から雨の入山。ポールを忘れ苦労。 |
| 1978/12/30~1/2 | 聖岳東尾根～聖岳～茶臼岳 東尾根は6名。その後、聖平で5名合流。 |
| 1979/12/30~1/1 | 仙丈ヶ岳・地蔵尾根～甲斐駒～黒戸尾根 2名。46歳のMと大縦走。Mはその後、飯豊で遭難死。 |
| 1980/12/29~1/1 | 爺ヶ岳東尾根～鹿島槍ヶ岳 9名中、女子1名。鹿島槍登頂は4名。ほか爺まで。 |
| 1981/12/30~1/2 | 五竜岳（白岳まで） 5名。白沢は雪崩の恐怖。未登頂。 |
| 1982/12/27~3/0 | 五竜岳（登頂） 2年越しの登頂。10名中、女子2名。 |
| 1983/12/30~1/2 | 白馬岳 12名登頂中、女子3名。7名下山誤り。大池で飲みすぎた。 |
| 1984/12/29~1/2 | 常念岳 10名中、女子3名。賑やかな山。N、怒って徳沢で下山。 |
| 1985/12/29~3/1 | 西穂高岳 3名。雪が多く5月より上りやすかった。 |
| 1986/12/29~1/2 | 槍ヶ岳（中崎尾根） 5名。冬の槍に初登頂。 |
| 1987/12/29~1/1 | 涸沢岳西尾根～奥穂高岳 5名。厳しい山だったが、サイコーの登山。 |
| 1988/12/29~1/3 | 槍ヶ岳北鎌尾根 7名。北鎌尾根上でテント泊。サイコーの山だった。 |
| 1989/12/29~3/1 | 甲斐駒ヶ岳（丹溪山荘～赤河原～駒～黒戸尾根） 2名。赤河原の道は厳しい。 |
| 1990/12/30~1/3 | 早月尾根～剣岳（2700mまで） 5名。北ア、最後の課題だったが。 |
| 1991/12/28~3/0 | 北岳（ポーコンの頭まで） 4名。うち若手3名。悪天候下山。 |

| | |
|----------------|---|
| 1992 | なし |
| 1993/01/02~4 | 赤岳・阿弥陀岳・硫黄岳・・・・・・・・・・7名。硫黄岳は悪天候中止。 |
| 1993/12/29~1/1 | 唐松岳・・・・・・・・・・4名。Gの荷物は34kgだった。厳しい天気で敗退。 |
| 1994 | なし |
| 1995/12/30~31 | 金峰山・・・・・・・・・・5名。小屋泊。 |
| 1996/12/29~31 | 仙丈岳・甲斐駒岳（北沢峠BC）・・・・・・・・・・最高齢65歳。全員両峰登頂。 |
| 1997/12/28~31 | 聖岳（便ヶ島）～易老岳・・・・・・・・・・厳しい山だった。聖登頂は3名。 |
| 1998/12/29~31 | 塩見岳・・・・・・・・・・6名。平均年齢55歳。当時は塩川小屋から三伏峠。 |
| 1999/12/28~30 | 北ア・笠ヶ岳（2450mまで）・・・・・・・・・・6名。厳しい積雪。 |
| 2000/12/28~31 | 東北・西吾妻山、会津駒、安達太良山（山岳スキー）・・3名。西吾妻は下降ミス。会津駒、激ラッセル。 |
| 2001/12/28~29 | 八方尾根・丸山上（2460mまで・山岳スキー）・・2名。丸山上まで。 |
| 2002/1/03~1/5 | 草津・白根山（山岳スキー）・・・・・・・・4名。 |
| 2002/12/28~1/1 | 吾妻山・大沢下り、蔵王越（山岳スキー）・・・・・・・・大沢は2名。車のサポートあり。 |
| 2003/12/29~30 | 北ア・西穂高岳独標・・・・・・・・・・3名。小屋泊。 |
| 2004/12/28~31 | 甲斐駒・坊主尾根～甲斐駒・・・・・・・・坊主尾根は厳しかった。相方不調。八合から激を飛ばし上らさせた。 |
| 2005/ | なし |
| 2006/ | なし |
| 2007/ | なし |
| 2008/12/30~31 | 甲斐駒・黒戸尾根・・・・・・・・・・2名。厳しい天気だった。 |
| 2009/ | なし |
| 2010/1/2~3 | 甲斐駒・黒戸尾根・・・・・・・・・・3名。厳しい天気だった。 |
| 2011/1/2~4 | 甲斐駒・仙丈ヶ岳（森林限界まで）・・・・・・・・3名。甲斐駒のみ。仙丈は2名。 |
| 2011/12/29~30 | 甲斐駒ヶ岳（黒戸尾根）・・・・・・・・・・3名。Mは未踏。 |
| 2012/ | なし |
| 2013/1/2~3 | 乗鞍岳・西穂高岳（悪天候入山できず敗退）・・西穂大雪。 |
| 2013/12/28~30 | 甲斐駒（戸台～北沢峠～甲斐駒～黒戸尾根）・・3名。北沢から大雪だった。他Pの若手がラッセルを頑張った。 |

- 2014/12/27~29 仙丈ヶ岳・地藏尾根・・・・・・・・・・・・
- 松峯小屋から往復。足は揃っていた。上部はモーレツな風。
- 2015/12/27~30 日向八丁尾根～甲斐駒（凍傷事故あり）・・・・
- 3時間でビバーク。翌日、強風下、2名凍傷。1名ヘリ救助。
- 2016/12/27~29 仙丈ヶ岳（悪天候・森林限界まで）・・・・
- 上部はモーレツな風。相方が森林限界下で降りると宣言。
- 2017/12/27~30 甲斐駒（悪天候・駒津峰まで）・・・・
- 嵐が来てモーレツな強風。最悪の天気。二年連続の敗退。
- 2018/12/27~29 甲斐駒・黒戸尾根・・・・
- 相方がやや不調。九合で激を飛ばし上る。
- 2019/12/28~29 中ア・空木岳（2680mまで）・・・・
- 相方が絶不調。ヨナ沢の頭から単独と九合で時間切れと強風で心が折れた。



水場は流れていた

池山小屋

問題は小屋の標高がやや低いので、頂上まで標高差が大きいのが気になった。そんなことを考えながら、駒ヶ根 IC を降りて、林道終点に向かった。

登山道までアプローチは、駒ヶ根公園スキー場もあるが、林道がやや有利。林道終点には簡単に到着。車が二台。雪はない。



池山小屋

荷物をまとめて出発。私は18kg、相方は16kg程度。久しぶりの重荷だった。林道を小1時間で登山口着。右手にスキー場からの道が伸びていた。荷物を軽くするためここで昼食。無風で静かで暖かい。登山者の気配はなかった。上りやすい道を行く。上も林道が続き、夏のタクシー乗り場もあった。池山尾根は、1980年8月、M 労山の夏山登山学校で下った。ここを何となく覚えていた。野生動物観察棟分岐から雪が出てきた。右は池山尾根の名称にもなっている、「池山」の分岐である。池山をパスして、左に箆ヶ沢を見て上ると旧池山小屋分岐。上り詰めれば水場があり避難小屋が見えた。水場で水が「ゴボゴボ」と黒いビニールパイプから出ていた。しかし、今回は流れているか不明だったので、各自3L背負って来た。小屋はキレイな小屋だった。まだ誰もいなかった。靴のまま上がれるので有難い。トイレは完備。しかも、夜は電灯が点く。外のソーラーで蓄電をしている。標高は約1750m。頂上まで約1114mある。黒戸尾根は、七丈から頂上まで約536m、仙丈の地蔵尾根は、松峯小屋から約1013m、甲斐駒の北沢峠からは約931mだから長い長い。従って多くの登山者は、更に上にBCを設ける。標高差1000m以内が理想。ただ、水はない、小屋もないでは、ロートル部隊は、なかなか厳しい。しかも、池山尾根の途中には、何と「大地獄・小地獄」と呼ばれる、恐ろしい難所がある。夏の経験の記憶が全くないが、ネットでは事故も多く要注意とあった。「大地獄・小地獄」「大きな標高差」「長い

尾根」が池山尾根のポイントだった。

小屋では会員のGに借りたテントを張った。フライを使ったので、結露が酷かった。その結露が朝方凍るほどの低い気温で、夜は寒くて快適な睡眠は程遠かった。

2日目 12月29日(日) 快晴・上部強風

起床4:00-出発5:30-大地獄7:22-小地獄8:08-ヨナ沢の頭8:35-駒石10:31-最高到達点10:47-小屋14:24-林道終点16:38

標高差 避難小屋約1750m~最高到達点約2680m=約930m

小地獄・大地獄に閻魔大魔王はいるか

昨日、小屋に50代の夫婦が到着した。結局、今回の小屋泊り2組だった。彼らも小屋から往復だった。夜は兎に角、寒かった。-15度くらいか。熟睡は出来なかった。小屋までの行程が少ないだけに、冬シュラフが良かったか。これは反省材料。夫婦は4:30に出た。彼らは今日下山なのでこの時間だが、もう一泊すれば、そんなに急ぐことはない。

我々は5:30に出た。想定時間は、頂上まで標高差約1114mを6時間で頂上に11:30。下りは、3時間で15時の下山予定だった。



大地獄の鎖場

ヘッドランプを点けていく。昔は1時ころ出発もあった。当時、8ミリマニアの会員がいて、早朝初だとイイ絵が撮れないと文句を言われたものだ。

カラマツ林を抜けた所にテントを片付けているパーティーがいた。学生と思ったら社会人だった。昨日登頂したという。気になる「地獄」を聞くと「それなりに」だった。

少し上から「大地獄」が始まった。が、名前程ではなかった。愛鷹山・鋸岳のが余程難しい。黒戸尾根経験があれば全く問題なかった。

「大地獄・小地獄」は、俗称で正式には「ヨナなぎ」と呼ばれる。いって見れば、大きなガラ場・崩壊地だ。「大地獄」が終わると、「小地獄」が始まる。少しトラバースをすると、標高点・2282m下で尾根コースとトラバースコースに分かれる。

「小地獄」は、物凄い急峻な沢・ルンゼ状をトラバースする。雪が多く不安定の場合は、尾根コースのが良い。沢・ルンゼは半端でなく、雪崩れたり滑落したら、絶対助からないような谷が落ちていた。従って「大地獄」より「小地獄」のトラバースが悪い。



小地獄



ヨナ沢の頭



2400m付近



2500m付近

この辺りから、相方のペースがガクッと落ちた。先に行ってくれという。ここ何年かの雪山パターンだった。理由はいろいろある。

脑梗塞の影響、昨夜・今朝の食事が食べられない、昨夜寒くて眠れなかった・・・などなど。

病気の影響は仕方がない。ただ以前、安全登山講習会で経験報告があり、完全復帰を宣言したし、今年

の登山回数は、私の49回より多いから影響は少ないと思う。

食事は生活習慣の改善が必要。日帰りの山で9時10時ころ必ず空腹で大騒ぎをする。しっかり朝食摂っていないからだ。

普通、しっかり朝食を摂れば、お腹は簡単に空かない。朝食を食べなくては絶対力が出ない。調子が悪くて上れなければ、パートナーが一番困る。冬山上れないから先に行ってくれは、たまに有っても仕方がないが、度々はマズい。何故なら、そこから単独登山になるからだ。冬山単独登山は「基本」でない。

それと下で誰かが待機は、先行者も気になって登山どころではない。ある意味、パーティーがバラけたら、登山を中止する位の決断が必要かも知れない。結局、ヨナ沢の頭から単独になった。単独は張り合いがなく、寂しく、面白くない。



駒石

上っていくと、標高点・2415m付近で単独男性が下りて来た。時間的には早い。聞けば「昨夜上部でビバークした」という。頂上達したのが17時ころ。下山は無理と判断したという。

「カールの避難小屋に泊まりたかったが、ラッセルがなく無理だった」といった。今日の先行者は、と聞くと「200mくらい先」といった。

道は避難小屋分岐上まで雪が少なく、ブッシュが多く歩き難かった。ハイマツを踏むのが気になった。上部に「駒石」が見えた。風も出てきた。そういえば今朝あった社会人も、「昨日は風が強かった」と

いった。

駒石までもう少しだった。左に避難小屋に下る分岐があった。小屋は左下に見えた。地図では50mほどの下りだが随分、遠くに見える。相方はこの辺りまで上ったようだ。

駒石をパス。目を凝らすと頂上下の斜面に先行の二人がへばり付いていた。なかなか上れない。直下は急な上りだった。風が強い。誰も居ない。せめて仲間がいたら。時間が気になった。既に上り始めて5時間経過した。夏なら1500m上れる時間だ。現在、2700mにしても5時間で1000mしか上っていなかった。時間がかかり過ぎだ。力は完全に落ちている。

下で待つ相方も気になった。それに昨夜の寒かった経験から、相方は「もう一晩は絶対泊まるのはイヤ」と宣言している。下山するなら、小屋に遅くとも15時まで帰りたい。そんなこんなで、ここで「心が折れ、切れた」捲土重来。下山を決定。



駒石から宝剣岳

下りも雪が少なくブッシュが歩きにくい。下から誰か来た。相方と思ったら違った。この方に相方の伝言を聞いた。また、二人来た。一人はアイゼンを使っていなかった。

明日、天気が崩れるので、何としても今日、上りたいようだ。中には日帰りの方もいた。13時まで上れば帰れるといった。結果は不明。

相方は、ヨナ沢の頭上部にいた。それでも結構上った。まずは、お疲れでお茶を飲んだ。途中でラーメンを作って貰い、温かく甘い飲み物をいただいた。再び、小地獄・大地獄を通過し小屋着。途中、アイゼンを引っ掛け転倒し、顔面を擦過した。疲れていたのだろう。

余談だが、正月、各氏に年賀状を頂いて驚いた。私より若い方、2名の方が昨年山で「骨折」をしていた。気を付けなければいけない。だから単独は怖い。



空木岳・池山尾根上部

小屋着 14 : 24。丁度、夫婦も下って来た。彼らは往復 10 時間。若い方はやっぱり早い。我々だと更に 2 時間掛かるだろう。中止は正解だった。

増えた荷物を背負い下山。水場はこの日も流れていた。下山は長い。体はガタガタ、脚はヨロヨロ、足裏はイタタイだった。捲土重来。次回、再訪を誓った。

(了)



地理院地図
GSI Maps

